

みたか環境ひろば 第19号

令和4年4月18日号



環境講座「プラスチックの問題 ～プラスチックフリー社会を目指して～」を開催しました！



当日は57人が参加し、プラスチックごみの問題を学びました。

安価で軽くて便利なプラスチック。日常いたるところにあふれているプラスチック。これが今世界で大問題になっています。みなさんもレジ袋やビニールを誤食して、死んだ海鳥やクジラの写真をご覧になったことがあると思います。人間のごみで命を落としている生きものがあることに心が痛みます。このままだと2050年には、プラスチックごみが魚の量を超えると警鐘を鳴らしています。今回の環境講座ではマイクロプラスチックの研究をされている東京農工大学の高田秀重先生をお招きして、プラスチック汚染の現状と対策を伺いました。

お話を聞いて気づかされたのは、この問題は遠く離れた海で起きていることではなく、私たちの身近な所から始まっていることです。参加者のアンケートからも「野川、多摩川や東京湾でのマイクロプラスチック調査のデータを分析されているのでとても説得力がありました。」「衣類やスクラブ（研磨洗浄剤）などにもマイクロビーズ（マイクロプラスチックより小さいもの）が使われているのが分かって驚いた。」「環境ホルモンの話はもっと早く知りたかった」などプラスチック問題の重大さを身近に捉えている感想が多く見られました。

石油由来のプラスチックは自然に還ることなくマイクロプラスチックとなり海を汚染しています。では、燃やせば問題解決というわけではなく、二酸化炭素やダイオキシンを発生させ、地球温暖化や大気汚染の原因になります。取り除く技術はありますが処分の費用は膨大。まずは私たち一人一人がプラスチックの使用を減らしていくことが先決で、それが環境を守ることになる。先生は例をあげ、みなさんに3Rリデュース（減量）、リユース（再利用）、リサイクル（燃やさない再資源化）のアクションを呼びかけました。

環境講座の後半には、プラスチック削減に向けて活動している「プラモンやっつけ隊」というグループの小学生3人組が、ごみ拾いやプラスチックフリーのお買い物活動を紹介してくれました。そして「ごみ問題や地球温暖化の問題をこのままにしておくと、2030年には人も生きものも大変な世界になってしまいます。大人のみなさん、一緒に考えてください。」と呼びかけました。私たち大人はこの言葉を重く受け止めて、次の世代に持続可能な地球を手渡していく責任があります。プラスチックフリーを目指して市民、企業、自治体が連携して取り組んでいかなければなりません。

「地球はあなたの子どもがあなたに貸し出したもの」これはアメリカンインディアンの言い伝えです。地球を未来の子ども達に傷をつけずに返さないといけません。4月1日からプラスチック資源循環促進法が施行されますが、プラスチックのごみ問題を自分事としてしっかり取り組んでいきたいと思ひます。
(大谷内)



★高田先生とプラモンやっつけ隊の意見交換★

「みなさんへのお願い」-安全で快適な環境づくり-

三鷹市では、三鷹市環境基本計画を策定しています。この計画で対象とする分野は、三鷹市環境基本条例に基づき、「生活環境」、「文化的環境」、「自然環境」及び「地球環境」です。

ここでは、「文化的環境」として、安全で快適な都市環境の整備につながるヒントを考えました。私は全盲の視覚障害を持っていますので、視覚障がい者の立場から日頃、環境に対して感じる日常について、いくつか書いていこうと思います。

去年はコロナ騒動の中、東京を中心としてオリンピック、パラリンピックが開催されました。こういう大きなイベントがあると、それに伴い、いろいろな良い影響があります。

JRの駅の放送では、目の不自由な方を見かけたらその方々への協力をお願いする放送が流れるようになりましたし、そのことも影響してか、町中でも声をかけてくださる方が確実に増えた実感がありました。とはいえ、日常においてまごまごする局面は、まだまだつきものです。手伝いたい気持ちはあるけれども、具体的にどうしたら良いのかわからないという声もときどき耳にします。もちろん身近に障がい者との関係がない方が圧倒的に多いでしょうから、その気持ちもよくわかります。しかし、目の前でまごまごしている障がい者がいたら、何かお困りですか？なにかお手伝いしましょうか？と声を一言かけてくださることをこの場をお借りして改めてお願いしたいのです。困っている人に進んで声をかけることで、人格と個性を尊重しあいながら共に生きる社会をつくるための環境整備が進んでいくこともあるのではないのでしょうか。

視覚障がい者に限らず、障がい者は情報に関して、弱者であり、その一言がどんなにありがたいかわからないですから、もしその時、あなたに余裕があったら、ぜひ一度声をかけてくださるようお願いしたいと思います。よろしく願いいたします。（籠宮）



環境講座「気候変動の現状と将来」(連雀コミュニティセンター)

連雀コミセンでは今年度、東京管区気象台の坂井めぐみ氏に講演を依頼しました。

気候変動の基本は温暖化です。産業革命以降人間活動によって大気中の二酸化炭素(CO₂)が急に増加しました。200年前に比べれば49%、この30年だけでも16%も増えています。CO₂はその昔地球を生命が繁栄する気温に保つ働きをしてきました。もしCO₂もメタンも大気中になれば地球は家庭用の冷凍庫の中のような気温だったはず



でもそのCO₂が増え過ぎたのです。ヒートアイランドの影響が少ない府中市のデータで見ると、1980年代は熱帯夜が39回だったものが2010年代には144回。猛暑日も同様に増加しました。

雨の降り方も変わります。この100年日本の降水量はほぼ変化がありませんが、短時間に降る強い雨の回数(集中豪雨)は増えています。つまり雨が降る日は少なくなり、降れば豪雨の可能性が高くなります。洪水被害も干ばつも増えるのです。



地球規模で見ると、最悪の場合21世紀末までに北極海の海水は消え、海面水位は0.8m上がり、高波の被害の増加が予想されます。海水温は2度上がり、台風は巨大化するでしょう。海水にCO₂が多量に溶け込むと、海水が酸性化し、・・・と気候変動の影響について様々勉強しました。

とにかく私たちとしては、これ以上温室効果ガスを増やさない努力をしましょう。（佐野）

編集後記

先日、都心で桜の開花が観測されました。三鷹周辺には、井の頭公園をはじめ、桜を楽しめるスポットがたくさんあります。今年こそは、日本の春の風物詩を直接眺めたいと思います。新型コロナウイルスの世界的な蔓延に加え、ロシアによるウクライナ侵攻など、暗い話題ばかりが目立ちますが、力強く咲き誇る桜が新生活の門出を祝い、明るい笑顔を呼んでくれることを願っています。（橋本）

次回の発行は令和4年7月の予定です。

発行：みたか環境活動推進会議
(愛称 みんなの環境)

連絡先：三鷹市生活環境部環境政策課
電話 0422-29-9612 (直通)

E-mail: kankyo@city.mitaka.lg.jp

本誌は、市役所、市政窓口、図書館、コミセンや市のHPから入手できます。